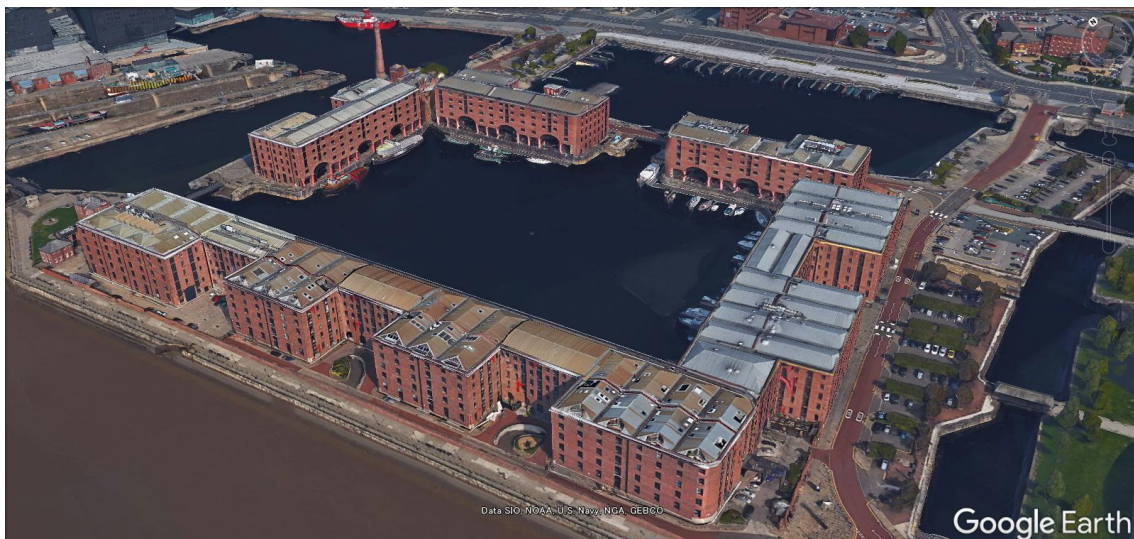


＜英国栈橋調査の余録＞ リヴァプール再開発地区（アルバートドック）

2015年調査（執筆担当 寄神 裕佑）

ロンドンから列車で北西へ約2時間半の場所に位置される港町リヴァプール(Liverpool)。ビートルズやサッカープレミアリーグの強豪「リヴァプール FC」と「エヴァートン FC (Everton)」の本拠地でも有名な街。今回は栈橋調査の行程上、夕食会場への道中1時間半程を利用し街を散策した。宿泊先であったライムストリート(Lime Street)駅付近のホテルからタクシーで10分。立ち寄ったのはリヴァプール再開発地区、観光施設のアルバートドック (Albert Dock)。2004年に海港としての歴史を伝える他の地域とともに「リヴァプール海商都市」の名称で世界遺産（文化遺産）に登録された施設である。



アルバートドック全景（写真引用：Google Earth）

1846年に開設され、貿易船が出入りし、積荷を上げ下ろした倉庫を再開発した施設で、1980年代から資本投資され、現在では「テート・リバプール美術館（Tate Liverpool）」、「マージーサイド海洋博物館 (Merseyside Maritime Museum)」、ビートルズ博物館「ザ・ビートルズ・ストーリー (The Beatles Story)」をはじめ、様々な店舗、レストラン、ホテル等が入居する複合エリア・観光施設として再生されている。

当日の天気が雨だった為、外は人影も少



ビートルズ・ストーリー
（写真引用：Google Earth）

なかったが、閉店間際のアンテナショップやドック内の倉庫を再開発し店舗として利用しているレストラン等は、ちょうど夕食時であった事もあり、多くの人で賑わっていた。



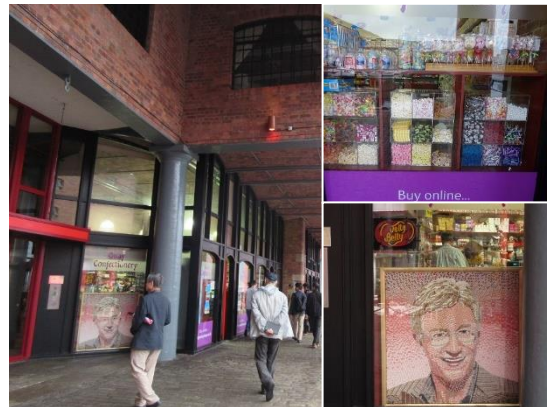
マージーサイド海洋博物館



テート・リバプール美術館

当日は市内の別の場所で夕食を予約しており、ドック内で食事を取る事はなかったが、立ち並ぶ店舗は洒落た造りのものが多く、船を眺めながらドック内で食事をしたかったという団員の声もあった。

今回の行程で訪れたロンドンを除く全ての街で共通した事は、レストランやバー等食事をする店舗以外は公共施設と同様に 17 時頃に閉店している事が多く、ドック内のお土産・ビートルズ関連・雑貨等の店舗の殆どが 17 時頃に閉店し、日本へのお土産やちょっとした買い物を楽しめなかったのが残念であった。



ドック内に並ぶレストランやアンテナショップ

産業革命の象徴とも言うべき港町で、一度はかなり衰退した時期もあったようだが、現在の活況を見ると日本での地方の再開発において参考となるのではないだろうか。

<完>